



たまねぎの栽培管理について

べと病を防ぎましょう

たまねぎは、年内～1月中旬にかけて、べと病に感染する場合があります。感染後しばらく潜伏し、翌年の2～3月頃に症状が現れたものが『越年罹病株』です。越年罹病株から感染が広がり、

3月下旬以降の多発生につながります。特に毎年発生がある圃場では予防防除を行いましょう。



べと病の症状(越年罹病株)の様子

【農薬の例】

農薬名	効果	系統 (FRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
ジマンダイセン水和剤	予防	ジチオカーバメート類 (M3)	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内
ダコニール1000		クロロニトリル類 (M5)	1000倍	収穫7日前まで	6回以内
プロボーズ顆粒水和剤	予防・治療	クロロニトリル類 (M5) CAA殺菌剤 (40)			3回以内
ランマンフロアブル		Qil殺菌剤 (21)	2000倍	収穫前日まで	4回以内
アミスター20フロアブル		アゾキシストロビン (11)			

※ダコニール1000・プロボーズ顆粒水和剤に含まれる成分TPNの総使用回数は、6回以内。

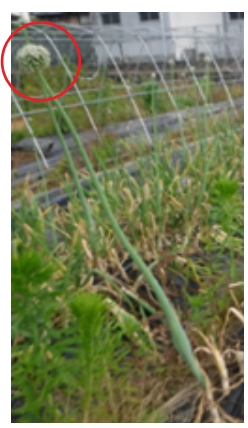
追肥をしましょう

追肥の例

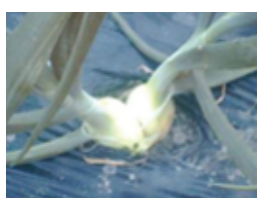
- 苦土入り化成肥料8・8・8使用の場合
 - 1回目
定植から20日後に1aあたり7kg
 - 2回目
1月中旬～下旬に1aあたり7kg
 - 3回目
3月上旬に1aあたり7kg
- ※早生品種の場合、3回目の追肥は不要です。

追肥は適期に！

追肥時期が早いと育ちすぎてしまい「とう立ち」や「分球」の原因になってしまいます。追肥が遅れると病害虫が発生しやすくなったり、貯蔵性が落ちたりします。



とう立ち・・・茎が伸び、花が咲くこと



分球・・・球が二つに分かれること

冬季の水田耕うんについて

冬季に水田を耕うんすることで、ジャンボタニシや多年生雑草を減らす効果が期待できます。

ジャンボタニシ対策の効果

ジャンボタニシは気温14度以下になると土の中の浅いところ(5cm未満)で越冬します。土壌が乾燥して固い冬期に耕うんし、土の中で越冬しようとしている貝を砕いたり寒さに当てることで、越冬する数を減らせます。

耕うんのポイント

- ・浅めに耕うん(深さ4～5cmほど)
- ・ロータリーの回転は速めに
- ・移動速度はゆっくり



写真:岡山県 令和5年度病害虫発生予察情報 第8号ジャンボタニシより引用



写真:農林水産省HP 防除対策リーフレット (【秋冬編】ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために)より引用

【多年生雑草の例】



オモダカ
矢じり形の大きな葉をつける。



ウリカワ
根ざわから地下茎を伸ばし、その先端に新しい芽ができ次第に増える。



クログワイ
地下茎を伸ばし、節から茎を真っ直ぐ上に伸ばす。

多年生雑草を減らす効果

多年生雑草の防除方法の一つとして、耕うんをすることで、地下にある多年生雑草の茎や根を切断できます。また、多年生雑草の塊茎は低温や乾燥に弱いので、塊茎を掘り出して寒さに当てることで発芽を減らすにつながります。



多年生雑草の塊茎
多年生雑草は土の中に塊茎を作り、越冬した塊茎から翌年の芽が出る。